

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600331
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ
事業所名	グループホーム宝寿
所在地 (電話番号)	袋井市浅羽64-6 (電話) 0538-23-0281

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(20年11月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 1月 20日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18人
利用定員数計	18 人
常勤	6人
非常勤	12人
常勤換算	7.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(2年間)	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	600円	おやつ	200円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(11月 14日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	9 名	要介護4	5 名			
要介護5	0	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.4 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みつはし医院、まきの歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が安心して生活できるよう、職員一人ひとりが笑顔をもって接し、運営理念の「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を送れるよう支援している。職員や利用者が一番慣れ親しんだ呼び方をしており、利用者それぞれが自分の居場所で安心して生活ができるように努めている。利用者の生活の様子は随時家族に連絡し、連携を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議を開催することにより、地域との連携体制が進んでいる。地域包括支援センターと協力し、相談等も受けている。今後、地域の認知症に関する相談を受ける体制を整え、更に地域との関わりが深まることを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が評価を行った結果、地域との関わりを増やしていきたいとの意見が出ている。「難しいと感じたが、ホームでの細かいケアの必要性を知った」という意見もあり、サービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>特にホームの行事に関する話し合いが多いが、会議の中で防災訓練への参加要請を家族に行い、実際に見学してもらった。今後は、経営面やホームの運営にかかわる意見等が出れば、より充実したものとなる。また防災訓練等への地域参加の要請も必要であり、家族、地域、行政、職員が一体的な支援体制となることを期待する。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との連絡を十分に取り合い、苦情になる前に対応するように努め、意見、要望には速やかに対応できる体制となっている。また運営推進会議での意見等はいち早く取り入れている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りへ参加したり、ホームの夏祭りへの参加や備品の借用の依頼等、協力体制が整っている。外出時には挨拶を心がけており、地域の中でのホームの位置づけが認識されてきた。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という理念を掲げ、住みよい住居を提供し、個々の尊厳を守り、穏やかで心豊かな生活ができるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所に掲示している。穏やかに生活を送ってもらうよう事業者独自の理念を掲げ、支援を行っている。「ここにきて良かった」という利用者の声に反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭りへ招待したり、お祭り等に参加する等、地域との交流を図っている。また日常の買い物や散歩でも住民と挨拶を交している。	○	近隣からの相談を受け、ホームのノウハウや経験を生かした支援する仕組みづくりを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、サービスの向上、実践の取り組み、考え方等を再認識する機会となった。また、地域との連携の必要性が理解できたとの意見が聞かれた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政、民生委員、家族等が参加している。取り組みへの協力要請や現状の報告等を行っている。家族にも防災訓練への参加が得られた。	○	会議の中で夜間帯での災害発生時への協力要請についての検討を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの協力体制があり、日常的に相談や協力を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活状況や行事等の写真を入れたお便りを家族に送付している。月に一度は、利用料の支払いに来てもらうようお願いし、金銭の収支の報告と印鑑をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者との信頼関係を大切にし、面会時には意見や要望、苦情等言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の資質向上を目的に異動を行っている。引継ぎ期間を十分に取り、利用者が不安にならないよう配慮している。ユニット間は職員の固定はしていないので、どの職員でも対応できる体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会や新人教育を行い、認知症への理解を深めている。	○	今後、必要に応じ外部研修への職員派遣を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の勉強会、ケアマネージャーの連絡会等に積極的に参加して情報の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前、職員が面接に訪問したり、家族や本人にホームの見学をお願いし、他の利用者と話をしてもらおう等、納得して入所してもらえよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意とすることやできることを見つける等、残存機能を引き出すよう努めている。また、生活に張りが出るよう、花の水かけ、食事の片付け、食器洗い等と共にやっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前のアセスメントで、今までの暮らし方を知ったり、入居後の生活の中で得意とすることや、やりたいことの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞きながら、できること・できないことの分析を行い、職員の意見も取り入れ介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは通常3ヶ月から4ヶ月で見直しているが、状態の変化時は随時行っている。ケース会議を開催して職員間で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医以外の受診は原則家族が連れて行くことになっているが、家族の状況に応じて職員が連れて行ったり、外出の希望があれば支援を行っている。面会時間も柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度かかりつけ医の往診がある。また、電話での相談やターミナルケアへの協力体制もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を明示し、医療処置が必要になった時は入所継続が難しいことを説明している。本人、家族の希望もある場合で、医療的支援を行う場合は、医師と連携を取りながら実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは利用者を尊重するよう十分配慮している。家族より要望があったので、面会簿は個別の対応を行っている。便り等の外部に出す物に関しての写真は家族の了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者の状態を把握し、できることをやってもらったり、外出等希望に沿った援助をしている。ホーム内の役割が自然にできており、終了時にはねぎらいや感謝の言葉をかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりに合った食事の形態・量の提供を行いながら、職員も一緒にテーブルで話をしたり、利用者の状態をみながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者それぞれのペースに合った入浴時間があるので、利用者のペースに沿った支援を行っている。入浴拒否のある利用者については、言葉掛けを工夫して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から、趣味や得意とすることを把握し、日々の生活の張りとなるよう職員が考えながら支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLの低下によって、買い物や外出が少なくなってきたが、花見やコスモス畑に出かけた帰りに外食をしたり、地域の祭りへの参加や天気の良い日の散歩等、外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が見守り対応し、玄関、出入り口には施錠しないよう取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練には家族も参加し、避難誘導の実態を理解してもらっている。	○	夜間帯等の非常時、近隣の方の協力を得られるよう、運営推進会議等で要請し、消防署や地域の協力を働きかけたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを中心に作成しているが、利用者からの希望があれば柔軟に対応している。また水分量や摂取量のチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が暖かな家庭的雰囲気、共有空間も居心地良いつくりとなっている。廊下の壁には、家族が描いた絵を飾ったり、利用者が思い思いに過ごしやすいよう、椅子やソファの配置にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや家具を持ち込み、一人ひとりが住みやすい部屋作りをしている。居室には、孫の写真や手紙が張っており、落ち着いて生活できるよう配慮している。		